

端末エミュレーター「TCPLink Enterprise Server」新バージョンを販売開始 セキュリティの向上と純正エミュレーターとの互換性強化

キヤノンマーケティングジャパングループのキヤノン IT ソリューションズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：神森晶久、以下キヤノン ITS）は、端末エミュレーター「TCPLink Enterprise Server」の新バージョンを 8 月上旬より販売開始します。

サードパーティ製端末エミュレーターのトップベンダーである（※）キヤノン ITS が 1998 年より販売する「TCPLink」シリーズは、累計 150 万ライセンスの導入実績があります。その主力製品である「TCPLink Enterprise Server」は、メインフレームのオンライン端末機能を、さまざまなクライアント（PC、仮想環境、シンクライアント、スマートデバイスなど）の Web ブラウザ環境で実現する Web 対応端末エミュレーターです。

メインフレームは、その堅牢性からメガバンクや行政機関など基幹業務システムで広く使用されており、システムに高い信頼性・安定性が求められる金融、製造、流通の各業界では、今後も継続的な需要が見込まれています。一方、端末エミュレーターにおいては、クライアント OS のサポート終了に伴い、「Windows10」への移行を契機とした買い替えニーズが高まっているほか、クライアントの多様化により、さまざまなアクセス形態に対しセキュアな環境を確保することが課題となっています。

このような課題を解決するため、「TCPLink Enterprise Server」の新バージョンではメインフレームとの通信をよりセキュアな暗号化通信方法に変更し、最新のサーバー OS に対応することにより、セキュリティを向上させました。また、IBM i 向け純正エミュレーターとの互換性を強化し、ユーザー企業における端末エミュレーター買い替えの際にもスムーズな移行を実現します。

キヤノン ITS は「TCPLink Enterprise Server」を、メインフレームを保有する製造業、金融業、流通業などを中心に販売し、周辺開発を含め 2020 年までに売り上げ 10 億円を目指します。サードパーティ製端末エミュレーターのトップベンダーとして、キヤノン ITS はこれまでの端末エミュレーター導入提案・カスタマイズ対応のノウハウを活かし、お客さまの課題解決やさらなる業務改善を支援していきます。

ベースライセンス

製品名	価格（税別）	発売時期
TCPLink Enterprise Server（*）	¥600,000～	2017年8月上旬

ユーザーライセンス

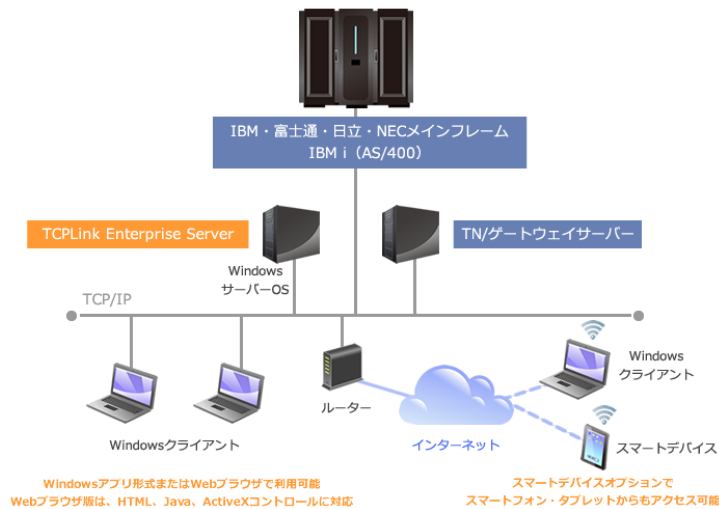
製品名	価格（税別）	発売時期
TCPLink Enterprise Server 1 ユーザーライセンス	¥30,000	2017年8月上旬

（*）同時セッション数により異なります。

（※）「端末エミュレーター市場占有率推移（金額）2016 年度実績」（メインフレームベンダー以外のサードパーティ製品が対象）、『ソフトウェアビジネス新市場 2017 年版』富士キメラ総研、2017 年

- 報道関係者のお問い合わせ先： キヤノン IT ソリューションズ株式会社
事業推進部 コミュニケーション推進課 03-6701-3603（直通）
- 一般の方のお問い合わせ先： キヤノン IT ソリューションズ株式会社
通信コミュニケーションソリューション事業部 03-6701-3577（直通）
- TCPLink Enterprise Server ホームページ： https://www.canon-its.co.jp/products/tcp_es/

<システム概要図>



<主な製品強化ポイント>

1. 暗号化通信ライブラリを変更しセキュリティを強化

セキュリティ対応版の暗号化ライブラリを、Microsoft が提供する API で実装する方式に変更しました。合わせて、起動中セッションの TLS 通信で利用しているサーバー証明書の表示などの機能強化を行いました。今後、Windows Update により脆弱性への対応、セキュリティ強度向上が行われるようになるため、将来においても信頼性の高い環境での利用が可能になります。

2. 最新のサーバーOS に対応

対応サーバーOS に、「Windows Server 2016」を追加しました。社内サーバー更改と合わせて、端末エミュレーターの移行もスムーズに実施することができます。

3. IBM i 向けデータ転送互換性を強化

IBM 5250 データ転送における互換性強化として、送受信ファイルタイプに Excel 形式を追加しました。さらに、純正エミュレーター (IBM i Access for Windows) の転送要求ファイル (dtt、dtf 形式) 読み込み、拡張形式の形式記述ファイル (fdf) の読み込みに対応しました。

<TCPLink Enterprise Server の特長>

● マルチホスト対応

IBM (TN3270 接続)、富士通 (TN6680 接続)、日立 (TN560 接続)、NEC メインフレーム (TNETOS 接続)、および IBM i (TN5250 接続) に対応しています。

● 純正エミュレーターとの高い互換性

ディスプレイセッション、プリンタセッション、ファイル転送の機能を標準で備え、各社純正エミュレーターとの高い互換性を備えています。今回のバージョンアップにより、さらなる互換性の向上を図りました。

● サーバー導入型で管理・運用の負荷を軽減

クライアントに必要なプログラムはサーバーから供給されるため、導入・更新が容易です。クライアントの一元管理、TCO 削減にも貢献します。

Microsoft、Windows、Windows Server および Excel は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。